

総合計画審議会 基本構想・基本計画(ベース)に対する指摘事項一覧

ベース	指摘事項	考え方	該当ページ
1 1-1	新しい地域との関係を創っていくのに、行政がどのような関係にたっていくのか、意思決定過程も含めてどのような位置づけになるのか表現ができていない。(地域だけで頑張ってくださいということで終わっている) 自分たちがスリムになって、外へ仕事をだしていくとしか聞こえない。	地域のことは地域で決める仕組みづくりを構築し、市は積極的にサポートします。 また、吹田市立市民公益活動センターを拠点とした、ボランティアやNPO等による主体的な活動を支援します。	P28 P29
2 1-2	「偏りのない市政」という言葉が気になる。 「偏りのない」という表現を例えば、「幅広い層の参画に基づく」とした方が文章の趣旨に合うのではないか。	幅広い層の市政の参画に変更しています。	P30 P31
3 2-1	「弾力性のある財政構造」ということで、時代の要請に応じて財源を次々に使うということではいけない。歯止めの表現を盛り込む必要はないのか。	「時代の要請にゆだねる」という表現を、「必要な新たな行政需要に対応できる」という表現にし、必要なものに財源を充てるという表現に修正します。	P32
4 2-1	資源配分の重みづけをつけるという方針が必要では。 とりわけ、予算の人員、計画ということが連携するということを謳っていくことが重要。	必要なところに、予算と職員が適切に充てられるなど、選択と集中による行政資源の最適な配分するため、組織横断的な連携を図ります。	P32
5 2-2	新しい公共という観点から、人材育成は、ジェネラリストが必要である一方で、信頼関係を築くということではじっくりと取り組むスペシャリストも必要。	幅広い知識、視野を身につけ総合性や専門性を持つ職員を育成する旨の方向性を明確にします。	P33
6 2-2	部署を超えた開かれた市役所。 組織横断的にざっくばらんに交流できるような市役所の雰囲気が必要。その延長線上に協働が見えてくる。	連携を意識して組織運営を図る旨の方向性を明確にします。	P33
7 2-4	社会のネットワーク化や情報化が進むなど、時代が急速に変化する中で、市役所がどのように変わっていくのが重要。(情報政策が重要) 情報戦略的なものがベース1、2、あるいはそれをつなぐ形で表に出したほうがよい。	市民と行政が協働したまちづくりを行う前提には、お互いが情報を相互に発信し、わかり合うことが重要であることから、情報戦略を行政経営の柱として位置づけます。	P35
8 全体	まちづくりの主体の表現が統一されていない。文中や図の表現を統一することが必要では。 「市民、自治会、NPO、企業、大学、研究機関、行政など」文中で表現が異なる。	市民、事業者、行政という表現で統一します。	全体

総合計画審議会 基本構想・基本計画(ベース)に対する指摘事項一覧

ベース	指摘事項	考え方	該当ページ
9	全体 ベース1とベース2をつなぐ役割が双方にあまり見られない。	将来像実現に向けて協働してまちづくりを進めるという方向性をベース1とベース2の共通の前文に盛り込み、行政の役割を示します。	P27
10	全体	<p>ルート1 市民自治 【協働についての行政の考え方を示します。】</p> <p>協働を全庁的に進めていく 協働による事業展開の推進</p>	P28 P29
11	全体 新しい公共の拡充や協働を進める中であって、行政が将来の展望として、どのように変わっていくのかということが読めない。	<p>ルート2 行政経営 【人材育成の方向性を示します】 市職員はさまざまなまちづくりの主体間の連携を円滑に図るコーディネーターの役割を果たし、ネットワーク形成能力を高め、協働意識を醸成します。</p> <p>市はあらゆる経営資源を適切にマネジメントし、地域主権にふさわしい都市経営を推進する人材を育成します。</p> <p>【組織運営について、方向性を示します】 複合的な課題解決に対応できるように、横断的な組織運営につながる連絡調整など関連分野との連携を重視した組織運営に転換します。</p>	P33